関係者各位　　令和６年５月27日

2024年(第34回)福岡アジア文化賞
受賞者発表

アジアの学術研究や芸術･文化の分野で顕著な業績をあげた方を顕彰する福岡アジア文化賞。
第34回目となる今年の受賞者は、この３名の方々に決定しました。
授賞式は９月26日(木) に開催予定です。

大賞　真鍋 大度（47歳）　メディアアート

表現と先進の科学技術をシンクロさせ、芸術の可能性を提示するアーティスト

・Perfumeとのコラボレーションや、リオ2016オリンピックフラッグハンドオーバーセレモニーでのARを駆使したプレゼンテーションなど、先駆的なプロジェクトを実践。
・身体に根差す歌やダンスといった表現と科学技術をシンクロさせ、芸術へ昇華させつつ、未来社会への問題提起やエンターテインメントとしての可能性を、作品やプロジェクトを通して発信し続け、世界で高い評価を得ている。
・2006年に株式会社ライゾマティクスを共同設立、2022年にStudio Daito Manabeを設立。実験的なアート活動とクライアントワークを併走させつつ、世界規模のプロジェクトを多数展開している起業家でもある。

学術研究賞　スニール・アムリス（44歳）　歴史学

環境や移民など複合的な視点でグローバル・ヒストリーを実践する歴史家

・自らのアイデンティティに基づき、ベンガル湾を基軸とする南・東南アジア地域の、国民国家の枠を超えるアジア史をテーマとしている。現在、イェール大学教授。
・最新著書『水の大陸 アジア』では、人と自然環境の関係性を、史実に着目し、環境、経済、政治、思想の視点から見事に描いている。
・気候変動や海面水位の上昇といった近年の「水」をめぐる危機的状況を取り上げながら、現代的な問題意識を歴史劇に織り込み、グローバル・ヒストリーを実践している。

芸術・文化賞　キムスージャ（67歳）　アート

アジア文化を起点に国際的な存在感を放つアーティスト

・欧米中心の現代アートが多様な文化に広がった 1990 年代、アジア文化を起点に国際的な存在感を放ち、その挑戦と創造性は留まることなく、現在も作品を発表し続けている。
・韓国の伝統的な風呂敷包みであるボッタリを配したインスタレーションや、光の性質を利用して空間全体に虹色のスペクトルを見せるインスタレーションで知られる。
・ベネチア・ビエンナーレをはじめ、世界の主要美術館での個展や国際展参加を重ね、日本でも東京国立近代美術館、福岡アジア美術館などに出品。

2024年（第34回）福岡アジア文化賞
公式行事日程（予定）

令和６年５月27日時点

行　事	日　程	場　所	内　容
授賞式	９月26日(木) 18:30～20:00（予定）	福岡国際会議場 （メインホール）	授賞式典 ※当日：会場参加 ※後日アーカイブ配信あり
市民フォーラム	＜大　賞＞ 真鍋　大度 ９月27日(金) 夜	※調整中	市民を対象とした 受賞者による講演会等 ※当日：会場参加 ※後日アーカイブ配信あり
	＜学術研究賞＞ スニール・アムリス ９月28日(土) 午後	アクロス福岡 （国際会議場）	
	＜芸術・文化賞＞ キムスージャ ９月28日(土) 夜	福岡アジア美術館 （あじびホール）	
学校訪問	９月25日(水) ～ ９月27日(金) ※日程調整中	福岡市内の小学校・中学校・高校等	受賞者が学校を訪問し、生徒と交流

※公式行事の申込みは、7月18日(木) 開始予定です（事前申込制）

【問い合わせ先】
総務企画局国際部アジア連携課（福岡アジア文化賞委員会事務局）担当：長岡、円城寺
お問い合わせ先　Tel：092-711-4930　Fax：092-735-4130
福岡アジア文化賞URL　https://fukuoka-prize.org/
写真素材ダウンロードURL　https://fukuoka-prize.org/presses/materials-

大賞　真鍋　大度

【贈賞理由】

真鍋大度氏は、アーティスト、インタラクションデザイナー、プログラマー、DJ と複数の肩書きを有している。Perfume とのコラボレーション（2010-）やリオ 2016 オリンピックフラッグハンドオーバーセレモニーでの AR を駆使したプレゼンテーションをはじめ、先駆的なプロジェクトを実践した人物である。

真鍋氏の創作の起点は先進のメディアテクノロジーであり、その時代毎にスマートフォンやタブレット、ドローン、機械学習、AI などをいち早く取り入れ、それらを従来の枠にとらわれない形式で表現やコミュニケーションへと展開していく。実験的かつ質の高い作品は世界で高い評価を得ており、メディアアートを志すクリエイターのカリスマ的存在となっている。

真鍋氏は、1976 年、東京都に生まれ、東京理科大学理学部数学科を卒業後、岐阜県立情報科学芸術アカデミー（IAMAS）を修了している。学部時代は数学を専門的に身に着け論理的な思考力を深め、IAMAS にて芸術としての実践を活性化させている。卒業後、2006 年にライゾマティクスを共同で設立し、実験的なアート活動とクライアントワークを併走させつつ、世界規模のプロジェクトを多数展開していくなど起業家としても逸材である。また、多数の音楽フェスティバルでミュージシャン兼 VJ として出演している点にも注目したい。

これらのバックグラウンドから生み出される作品群は、一貫して科学技術と芸術の融合に関する R&D（研究開発）の上に成り立っている。例えば、坂本龍一『センシング・ストリームズ』（2014）、Björk『Mouth Mantra』（2015）、スクエアプッシャー『Terminal Slam』（2020）、Arca『Incendio』（2023）などのアーティストから、脳情報学者の神谷之康『dissonant imaginary』(2019) や、CERN(欧州原子核研究機構)、ジョドレルバンク天文物理学センター等の科学機関まで、双領域を繋ぐ多彩なコラボレーションを実現している。

真鍋大度氏は、身体に根差す歌やダンスといった表現と科学技術をシンクロさせ、それを芸術へ昇華させつつ、未来社会への問題提起やエンターテインメントとしての可能性を提示している。今後、一層リアルとバーチャルの交錯が進む社会において、豊富な技術的知見を背景にヒトが選択しうる魅力的な未来像を作品やプロジェクトを通して発信し続ける真鍋氏は、世界やアジアにおいて誇るべき存在であり、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

第 34 回福岡アジア文化賞

大賞

真鍋　大度

日本
アーティスト、プログラマー、DJ
ライゾマティクス代表、STUDIO DAITO MANABE代表
1976 年 7 月 18 日生（47 歳）

経歴

1976　東京都生まれ
2000　東京理科大学理学部学士号（数学）
2003　ダートマス大学大学院音楽学部交換留学
2004　岐阜県立情報科学芸術アカデミー（IAMAS）DSP コース修了
2004-07　東京藝術大学美術学部先端芸術表現科非常勤講師
2005-07　東京工芸大学非常勤講師
2006　株式会社ライゾマティクス設立
2010-11　多摩美術大学美術学部情報デザイン学科非常勤講師
2012-13　九州大学大学院芸術工学府非常勤講師
2017-　東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師
2018　ブレーメン芸術大学特任教授
2018-22　慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授
2020　多摩美術大学美術学部情報デザイン学科非常勤講師
2022　Studio Daito Manabe 設立

その他、マサチューセッツ工科大学 Media Lab, ニューヨーク大学 ITP, パーソンズ美術大学, 中国伝媒大学, 東京大学, Fabrica, Meet the Media Guru, TEDxHongik, FITC, Kikk Festival, CLICK Festival, Eyeo Festival, Mutek, Resonate Festival, STRP Festival, Gray Area, Sonar+D, ArsElectronica, TodaysArt, Scopitone Festival, Multiplicidade Festival, Transmediale, STUDIO for Creative Inquiry, School For Poetic Computation, HKDI Master Lecture Series 等のレクチャー、ゲスト講師を務める。

主な受賞歴　（2014 年以降）

2014　第61回カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバルにてチタニウム&インテグレーテッド部門グランプリほか8部門15の賞を受賞(『Sound of Honda/Ayrton Senna 1989』)
第18回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞（『Sensing Streams-Invisible,Inaudible』）
One Show2014 金賞等　（『Sound of Honda/Ayrton Senna1989』）
D&AD Awards イエローペンシル,ブラックペンシル（『Sound of Honda/Ayrton Senna1989』）
2015　第55回ACC CMフェスティバル総務大臣賞ACCグランプリ(Perfume Live 『SXSW 2015』)
グッドデザイン賞　（Perfume Live 『SXSW 2015』）
2016　アルスエレクトロニカフェスティバル コンピューターアニメーション/フィルム/VFX部門 Award of Distinction（Nosaj Thing『Cold Stares ft. Chance The Rapper + The O'My's』）
2018　デジタルコンテンツEXPO ASIAGRAPH2018 匠賞
CODE AWARD グランプリ（『FUTURE-EXPERIMENT VOL.01 距離をなくせ』）
カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル デザイン部門 デジタルインスタレーション＆イベント金賞（『OBSESSION』）
アドフェスト フィルム部門 インターネットフィルム金賞（『OBSESSION』）
Spikes Asia デジタルクラフト部門 デジタルクラフトにおける技術的達成部門グランプリ(『OBSESSION』)

フィルムクラフト部門 演出部門 ゴールドスパイク（『OBSESSION』）
Tokyo Art Directors Clubs (ADC)賞 （『OBSESSION』）
2019 第22回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞 （『discrete figures』）
エンターテインメント部門優秀賞（Perfume×Technology presents『Reframe』）
2020 アルスエレクトロニカフェスティバル コンピューターアニメーション部門名誉賞
（Squarepusher『Terminal Slam』）
2021 STARTS Prize 名誉賞（『border 2021』）
2022 アルスエレクトロニカフェスティバルインタラクティブアート部門名誉賞（『morphecore』）
2023 アルスエレクトロニカフェスティバルニューアニメーション部門名誉賞（『multiplex』）

主な作品等

・『electric stimulus to face - test3』YouTube, 2008.
・『Perfume Global Site』（クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング）ウェブサイト, 2012.
・『Sound of Honda / Ayrton Senna 1989』（クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング）, 2013.
・坂本龍一×真鍋大度『Sensing Streams』札幌,東京,北京,アムステルダム,香港等, 2014-22/東京 (ICC Version) 2023-24.
・『Perfume Live at SXSW 2015』（クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング）, 2015.
・Nosaj Thing『Cold Stares ft. Chance The Rapper + The O'My's』（クリエイティブ&テクニカルディレクター）, ミュージックビデオ, 2015.
・リオ 2016 オリンピック閉会式『東京 2020 フラッグハンドオーバーセレモニー』（テクニカルディレクション, プロジェクションマッピング&AR 映像演出）リオ, 2016.
・DOUBLE A ×OK GO『OBSESSION』（テクニカルディレクション,ソフトウェアデザイン,プログラミング）, 2017.
・『COSMOS at Bluedot Festival』マンチェスター, 2017.
・docomo×Perfume『FUTURE-EXPERIMENT VOL.01 距離をなくせ。』（クリエイティブ&テクニカルディレクター）, 2018.
・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『discrete figures』（芸術監督等）モントリオール,ニューヨーク,サンフランシスコ,東京,大阪,リエージュ,バルセロナ,マドリード, 2018-22.
・真鍋大度×神谷之康研究室『dissonant imaginary』鹿児島,スペイン,宮城,愛知,メキシコ,東京,パリ,上海,北京,マドリード, 2018-22.
・Perfume×Technology presents『Reframe』（クリエイティブ&テクニカルディレクター, 音響）, 2019.
・Squarepusher『Terminal Slam』（監督,ソフトウェア開発等）ミュージックビデオ, 2020.
・『morphchore』（レクチャーパフォーマンス）バルセロナ,ボゴタ,東京,リオデジャネイロ,カイロ,北京,ソウル, リンツ, イスラエル, クランボーン, メルボルン, 2020-23.
・DJ クラッシュ×真鍋大度『Connected World』（ライブ）オンライン, 2020.
・『rhizomatiks_multiplex』（ディレクション、コンセプト,ミュージック）東京, 2021 / 深圳, 2023-24.
・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『border 2021』（クリエイティブ&テクニカルディレクション,ソフトウェア設計）東京, 2021.
・真鍋大度×ELEVENPLAY『tone at New Vision Arts Festival』オンライン, 2021.
・『坂本龍一：Playing the Piano 2022』（演出）オンライン, 2022.
・真鍋大度個展『EXPERIMENT』山梨, 2023.
・Arca『Incendio』（ミュージックビデオゲストアーティスト、エンジニア参加）2023.
・Nosaj Thing×真鍋大度『Contunia Live』（出演）バンコク, バルセロナ, 2023.
・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『Syn:身体感覚の新たな地平』(アーティスティックディレクション,作曲)東京, 2023.
・『坂本龍一トリビュート展：音楽/アート/メディア』（アーティスト,共同キュレーション）東京, 2023-24.
・真鍋大度×ELEVENPLAY『+1+1+1+』（アーティスティックディレクション,作曲）富山, 2024.

主な著作

・「Things on Stage―パフォーマンス作品における開発と実践―」『情報処理学会デジタルプラクティス Vol.8 No.4』（共著）, 2017.
・「ステージパフォーマンスにおけるボリューメトリックデータの活用」『フォトグラメトリ(その 2) 60 巻 4 号』（共著）, 2021.

学術研究賞　スニール・アムリス

【贈賞理由】

スニール・アムリス氏は、グローバルな視野の「鳥の眼」とローカルな文脈を重視する「虫の眼」の両者を併せ持つ稀有な歴史家であり、今後更なる活躍が期待できる逸材である。氏は既に英文単著を四冊発表しているが、これらにほぼ一貫しているのは、ベンガル湾を基軸とする南アジアと東南アジアにまたがる領域を対象にした、国民国家の枠を超えるアジア史をテーマとしている点である。

アムリス氏は、1979 年にインド系移民としてケニアで生まれ、シンガポールで幼少年期を過ごす。その後、ケンブリッジ大学に進学し、2005 年に博士号（歴史学）を取得している。学位論文は、*Decolonizing International Health*（2006）と題する、20 世紀半ばの南アジアと東南アジアの国際保健の歴史を描いた一書に結実している。その後、ロンドン大学バークベック校講師、ハーバード大学教授を経て、2020 年よりイェール大学の教授として歴史学を講じている。

第三作の *Crossing the Bay of Bengal*（2013）は、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて、イギリス帝国の支配下に、約 2700 万の人々がベンガル湾を越えてインドからセイロン（スリランカ）・ビルマ（ミャンマー）・マラヤ（マレーシア）の労働現場へと移住した史実を主題としている。単なる移民史を超えて、移民労働者たちの過酷な労働現場における「生」の実相に迫ろうとする中で、移民たちの「心」の在処をできる限り探ろうとする試みがなされており、ベンガル湾をめぐる「精神史」とも言うべき作品になっている。

アムリス氏は、近作の *Unruly Waters*（2018）（邦訳『水の大陸 アジア』（2021））では、人と自然環境の関係性を主題にして、英領期のインドにおける干ばつ・飢饉への対応そして灌漑建設、独立後におけるダム建設そして緑の革命など、開発の過程が「人」と「水」の関係性を大きく変容させた史実に着目しつつ、その過程を環境・経済・政治への視点のみならず、思想のドラマを含んだ見事な語り口で描いている。さらに、中国を含めた広域のアジアにも視野を広げ、近年における「水」をめぐる危機的状況ー気候変動（モンスーンの変調）、地下水の枯渇、国境紛争、海面水位の上昇などーを取り上げながら、現代的な問題意識を歴史劇の語りの中に織り込んでいる点も注目される。

インド系ディアスポラという自らのアイデンティティに基づきつつ、ベンガル湾を基軸とするローカルな文脈に基盤を置く「グローバル・ヒストリー」を実践する、類まれなアジアの歴史家であるスニール・アムリス氏は、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

第 34 回福岡アジア文化賞
学術研究賞

スニール・アムリス

米国
歴史学者
イェール大学レヌ＆アナンド・ダワン歴史学教授
1979 年 9 月 4 日生（44 歳）

経歴

1979	ケニア、ナイロビ生まれ
1980-97	シンガポールにて幼少期を過ごし、教育を受ける
2000	ケンブリッジ大学学士号（歴史学）
2002	ケンブリッジ大学研究修士号（経済学及び社会史学）
2005	ケンブリッジ大学博士号（歴史学）
2004-06	ケンブリッジ大学トリニティー・カレッジ研究員
2006-15	ロンドン大学バークベック校歴史学科講師、上級講師、助教授
2015-20	ハーバード大学南アジア史学メーラ・ファミリー教授 ハーバード大学歴史経済センター共同ディレクター
2019-20	ハーバード大学マヒンドラ人文科学センター暫定ディレクター
2020-	イェール大学レヌ＆アナンド・ダワン歴史学教授 イェール大学南アジア研究会議議長
2024-	イェール大学環境大学院協力教員

主な受賞歴

2014	米国歴史学会ジョン・F・リチャード賞（南アジア歴史）
2016	インフォシス科学基金インフォシス賞（人文科学）
2017	マッカーサー基金フェローシップ
2022	A.H.ハイネケン博士賞（歴史部門） Falling Walls 財団 Breakthrough of the Year（社会科学・人文科学部門）

主な著書

・*Decolonizing International Health: India and Southeast Asia, 1930-65*, Palgrave/MacMillan, 2006.
・"Food and Welfare in India, c. 1900-1950", *Comparative Studies in Society and History*, Vol. 50, No. 4, ケンブリッジ大学出版, 2008.
・"Tamil Diasporas across the Bay of Bengal", *American Historical Review*, Vol. 114, No. 3, オックスフォード大学出版, 2009.
・"Indians Overseas? Governing Tamil Migration to Malaya, 1870-1941", *Past and Present*, Vol. 208, オックスフォード大学出版, 2010.
・*Migration and Diaspora in Modern Asia*, ケンブリッジ大学出版, 2011.
・*Crossing the Bay of Bengal: The Furies of Nature and the Fortunes of Migrants*, ハーバード大学出版, 2013.
・『水の大陸 アジア:ヒマラヤ水系・大河・海洋・モンスーンとアジアの近現代』秋山 勝訳, 草思社, 2021.
・"Medicine and the Monsoon", *The Lancet*, Vol. 398, No. 10296, Elsevier, 2021.
・*The Burning Earth: A History*, W.W. Norton/Allen Lane, 2024 年 9 月出版予定

芸術・文化賞　キムスージャ

【贈賞理由】

キムスージャ氏は、欧米中心の現代アートが多様な文化に広がった 1990 年代、アジア文化を起点に国際的な存在感を放ったアーティストである。韓国の伝統的な風呂敷包み（ボッタリ）を配した鮮やかなインスタレーションや、ボッタリをトラックに山積みにして移動したパフォーマンス／社会彫刻などで注目された。2000 年代後半以降には、光の性質を利用して空間全体にスペクトル（虹の七色）を見せるインスタレーションを発展させ、壮大な宇宙観や普遍的な真理へ至らせる実践が、文化の違いを越えて高い評価を得ている。

キムスージャ氏は、1957 年に韓国・大邱で生まれ、1980 年代にソウルの弘益大学校、同大学院、パリの国立高等美術学校などで学んだ。1992-93 年はニューヨークの PS1 に滞在し、ボッタリを初めて作品に使った。日用品を大きくカラフルな布で包んだボッタリは、生地を縫う、包むといった行為が、女性の労働や生きることそのものを象徴する小宇宙ともなる。同時に政治的・経済的理由で移動や移住を余儀なくされるグローバル化の一側面も示唆する。

1999-2001 年には代表作『針の女』を制作。これはキムスージャ氏自身が東京、ニューヨーク、ロンドン、メキシコシティ、カイロ、デリー、上海、ラゴスの雑踏で立ち止まる姿を、背後から撮影した映像作品である。激しく動く都市の時間に異分子として静止が持ち込まれることで、呼吸する根源的な身体が異なる時間軸に編み込まれる。グローバル化のなかで、自身の拠り所となる地域性、場所性を掘り下げた秀作といえる。

2006 年には初めて自然光を用いた『息をする―鏡の女』を、マドリードの国立ソフィア王妃芸術センターのクリスタルパレスで発表。この作品では韓国伝統の五方色（オバンセク）や五行説が象徴する宇宙の構造が、光という非物質的な素材で表現され、空間は光に包まれた。

この間、ベネチア・ビエンナーレに複数回参加した他、世界の主要美術館での個展や国際展参加を重ねてきた。日本では 1980 年代後半からグループ展に参加しはじめ、1999 年の CCA 北九州のアーティスト・イン・レジデンス、東京国立近代美術館、福岡アジア美術館、横浜トリエンナーレ、越後妻有トリエンナーレなどに出品。近年も 2022 年にはフランス・メッス市のサンテティエンヌ大聖堂にステンドグラスを恒久設置、2024 年にはパリの現代美術館ブルス・ド・コメルスで、空間全体に鏡を配した『息をする―星座』を発表。

各地で分断や衝突が拡がる今日、キムスージャ氏の壮大な実践は、改めて森羅万象の営みと世界の調和や均衡を意識させるものであり、その留まることのない挑戦と創造性は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

第 34 回福岡アジア文化賞

芸術・文化賞

キムスージャ

韓国
アーティスト
1957 年 4 月 24 日生(67 歳)

経歴

1957	韓国、テグ生まれ
1980	弘益大学校学士号（美術）
1984	弘益大学校大学院修士号（美術）
	パリ国立高等美術学院で石版画を修学（フランス政府奨学生）
1992-93	ニューヨーク近代美術館（MoMA）現代アートセンター（P.S.1）滞在作家
1998-99	ニューヨーク世界貿易センター滞在作家
1999	現代美術センター・CCA 北九州 滞在作家
2007-08	ヴァル・ド・マルヌ現代美術館 （MAC/VAL） 滞在作家
2014	コーネル大学 滞在作家
2018-19	セーヴル国立陶磁器美術館 滞在作家
2021	フンボルト博物館 滞在作家

主な受賞歴

1991	SONGEUN 芸術文化財団賞
1992	第11回石南現代美術賞
1996	韓国文化芸術協会賞
1998	Residency Award, World Views（米国Lower Manhattan Cultural Council （LMCC））
2000	パラダイス文化芸術協会賞
2001	韓国文化芸術協会賞2000年度最優秀個展賞
2002	Anonymous Was A Woman Foundation Award
	米国芸術家賞
2007	ビジュアルアートアワード（米国ニューヨーク現代美術協会）
2015	湖巖賞〈芸術部門〉（HOAM Prize）
	河鍾賢（ハ・ジョンヒョン）芸術賞
2017	アジア芸術賞（アジアソサエティ香港）
	Kim Se-Choong Sculpture Award
	芸術文化勲章シュヴァリエ
2019	ポワティエ市長賞
2021	韓国Okgwan文化勲章

主な個展

2001 「キムスージャ、針の女」P.S. 1 現代美術センター/ MoMA（米国）
「キムスージャ、針の女」ベルン美術館（スイス）
2002 「キムスージャ、A Laundry Woman」クンストハレ・ウィーン（オーストリア）
2003-04 「キムスージャ、Conditions of Humanity」リヨン現代美術館（フランス），
Padiglione d'Arte Contemporanea（イタリア），クンストパラスト美術館（ドイツ）
2005 *Journey into the World,*アテネ国立現代美術館（ギリシャ）
2006 「キムスージャ、息をする/ Respirare」Fondazione Bevilacqua la Masa（イタリア）
「Respirar-Una mujer espejo / 息をする–鏡の女」クリスタルパレス（スペイン）
※サイトスペシフィック・インスタレーション，ソフィア王妃芸術センターから依頼
2013 「キムスージャ、 息をする: ボッタリ」韓国館，第 55 回ベネチア・ビエンナーレ（イタリア）
「キムスージャ Unfolding」バンクーバー美術館（カナダ）
2015 「キムスージャ – 息をする」ポンピドゥー・センター・メッス（フランス）
「キムスージャ: Thread Routes」ビルバオ・グッゲンハイム美術館（スペイン）
2016 「MMCA Hyundai Motor Series 2016:キムスージャ– Archive of Mind」韓国国立現代美術館(韓国)
2017 「キムスージャ、Weaving the World」リヒテンシュタイン美術館（リヒテンシュタイン）
2019 「Traversées キムスージャ」ビエンナーレ創立記念展（フランス）
※ポワティエ周辺に 13 のサイトスペシフィック・インスタレーション作品を展示
2020 「キムスージャ –Sowing Into Painting」ワナス芸術基金 – ワナス コンスト（スウェーデン）
「息をする」サンテティエンヌ大聖堂に設置された常設のステンドグラス（フランス）
2023 *Weaving the Light,*フレゼレクスベア博物館（デンマーク）
「キムスージャ –(Un)Folding Bottari」ベルリン国立民族学博物館，ベルリン宮殿フンボルト・フォーラム（ドイツ）
2024 「息をする—星座」ブルス・ドゥ・コメルス-ピノー・コレクション（フランス）

主なグループ展

1996-98 *Traditions / Tensions, Traveling show,* アジア・ソサエティ，グレイ・アート・ギャラリー，クイーンズ美術館（米国），バンクーバー美術館（カナダ），西オーストラリア美術館（オーストラリア）
1998 第 24 回サンパウロ・ビエンナーレ（ブラジル）
1999 d'APERTutto, 第 48 回ベネチア・ビエンナーレ（イタリア）
1997-2000 *Cities on the Move, Traveling show,* Secession(オーストリア)，ルイジアナ近代美術館(デンマーク)，ヘイワード美術館（英国），ボルドー現代美術館（フランス），ヘルシンキ現代美術館（フィンランド），MoMA P.S.1（米国）
2000 第一回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（日本）
2005 横浜トリエンナーレ 2005, アートサーカス〔日常からの跳躍〕（日本）
Always a Little Further, 第 51 回ベネチア・ビエンナーレ（イタリア）
2007 *Artempo: where time becomes art,* 第 52 回ベネチア・ビエンナーレ（イタリア）
2013 「Making Space. ビデオアートの 40 年」ローザンヌ州立美術館（スイス）
2014 *Experiments with Truth: Gandhi and Images of Nonviolence,* メニル・コレクション（米国）
2017 ドクメンタ 14: ANTIDORON - The EMST Collection, フリデリツィアヌム美術館（ドイツ）
2022 *Making Worlds,* ニューサウスウェールズ州立美術館（オーストラリア）
2023 ICÔNES, プンタ・デラ・ドガーナ（イタリア）